

にじのへやだより

令和6年7月発行 (vol.2)

病児保育室にじのへや

蕨市病児・病後児保育事業

梅雨はまだ続っていますが、少しずつ暑くなる日々が夏の訪れを感じさせてくれます。

今年はマイコプラズマやアデノウイルス、RSウイルス等、夏特有の様々な感染症が流行しており、油断のできない日々が続いています。この不安定な状況の中、お子さま、保護者の皆様、先生方、医療従事者の方々、本当にお疲れ様です。病児保育室にじのへやでは、お子さま・保護者の皆様に安心してご利用いただけるよう、施設内を清潔に保ち、玩具等も丁寧に消毒を行っております。これからも感染対策を徹底してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

これから猛暑日も増えてくるかと思いますので熱中症にならないよう、水分補給と栄養を十分に取り、規則正しい生活を心掛けましょう！

5月

利用者数

5月〈利用内訳(年齢別)〉26(名) 登録者数 10(名)

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
3	5	5	3	0	9	0	0

6月

利用者数

6月〈利用内訳(年齢別)〉31(名) 登録者数 24(名)

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
1	16	8	0	3	1	2	0

利用児童の疾患

- | | | | |
|-----------|-----|------------|----|
| 1、上気道炎 | 28名 | 7、中耳炎 | 5名 |
| 2、胃腸炎 | 4名 | 8、気管支炎 | 2名 |
| 3、咽頭炎 | 2名 | 9、突発性発疹 | 3名 |
| 4、アデノウイルス | 5名 | 10、ヘルパンギーナ | 1名 |
| 5、マイコプラズマ | 3名 | | |
| 6、RSウイルス | 4名 | | |

5月、6月は、様々な感染症のお子さまが多くご利用されてきました。お子さまの体調に合わせて水分補給を行い、こまめに検温をしたりと急な体調の変化に気を付けながら十分に休息をとり、安静に一日を過ごせるようにしております。

体調が良い時は、施設の玩具やご家庭から持参した大好きな玩具で保育者と一緒に遊んだり、お絵描きやシール貼り等したりして楽しく過ごしています。

また、今月は季節に合わせて七夕の風鈴の製作を行いました。あらかじめ画用紙を巻いて、たこ糸と鈴をつけた紙コップにキラキラシールやお星さまのシールを貼りました。短冊部分にもシールを貼り、クレヨンでお絵描きをして、とても夏らしい可愛い七夕の風鈴が出来ました！

保育の様子☆

お家から持ってきたお弁当を体調に合わせて保育者と一緒にゆっくり食べるよ！



シールシール！
ペタペタ〜♪



体調が良いときは保育者と一緒に施設内のおもちゃや、お家から持ってきたおもちゃで落ち着いてゆったり遊ぶよ！



紙コップの風鈴にキラキラのシールを貼り、短冊部分にもシールやクレヨンでお絵描きをしました！

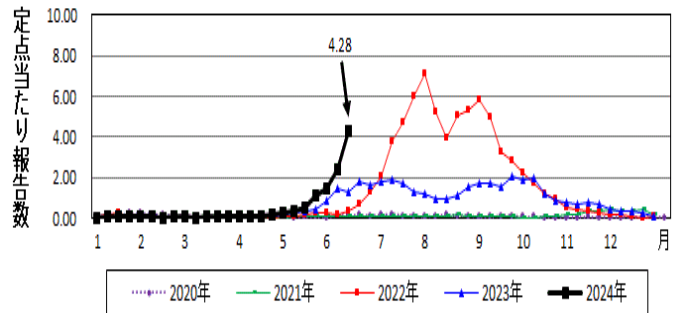


「夏かぜ」に注意しましょう



夏かぜと呼ばれる「ヘルパンギーナ」や「手足口病」、「咽頭結膜熱」は、5～6月に流行がスタートし、7月頃にピークを迎えることが多いです。現在埼玉県では、手足口病が流行しつつあり、注意が必要です。

手足口病(埼玉県)



手足口病とは

その名の通り、口の中や、手足などに水疱性の発疹が出る感染症です。子どもを中心に夏に流行し、その9割を5歳以下の乳幼児が占めます。原因となるウイルスはコクサッキーウイルスA6、エンテロウイルスEV71等複数あるため、1年に2回以上罹患したり、毎年罹患することもあります。

症状:感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足裏や足の甲などに2～3mmの水疱性発疹が出ます。

口内の水疱が破れると、痛みのため食事や水分摂取を嫌がる場合があります。発熱は全体の1/3にみられますが、あまり高熱にならないことが多く、ほとんどの場合、症状は数日のうちに消失します。

しかし、まれに髄膜炎や小脳失調症などの重篤な合併症を起こすことがあるので、注意が必要です。

予防:手足口病には有効なワクチンはありません。治った後でも、比較的長期間便などからウイルスが排泄されており、また、感染しても発病はせずにウイルスを排泄していることがあることから、発病した人だけを長期間隔離しても有効な感染対策とはなりません。また、手足口病は、発病しても軽い症状だけで治ることがほとんどであり、感染してはいけない特別な病気ではありません。これまでほとんどの人が幼少期に感染し、免疫を付けてきた病気です。よって感染対策は、接触感染を防ぐために手洗いをしっかりとすることと、排泄物を適切に処理することとなります。手洗いは流水と石けん(ハンドソープ)で十分に行ってください。また、タオルの共用は避けてください。

ホームケア

- ・こまめに水分補給する:手足口病は口内に発疹ができ、潰れると強い痛みを感じます。痛みのため食事や、水分を取りたがらなくなることがありますが、それだと脱水症状を起こす危険性があります。少量ずつで良いので、こまめに水分補給をするようにしましょう。
- ・喉ごしのよいものを食べさせる:口内の痛みにより、通常の食事を嫌がる場合があります。プリンやゼリー、アイスクリーム、柔らかく煮たうどんなど、喉ごしの良いものを少しずつ食べさせるようにしましょう。
- ・こまめに手洗いをする

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、コクサッキーウイルスA群が原因で起こる「夏かぜ」の一種で、症状は突然の高熱、喉の痛み、食欲不振等です。4歳以下での発症がほとんどで、1歳代が最も多いです。口の中や喉に小さい水疱ができ、それがつぶれて潰瘍(ただれ)を形成することもあります。痛みで食事ができなくなることが多いので、手足口病と同様、脱水に注意する必要があります。



咽頭結膜熱

アデノウイルスの感染によって起こり、発熱、咽頭炎(喉の痛み、発赤など)、結膜炎(目の充血、目やになど)が主な症状です。感染力が非常に強いです。

「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」は現在(令和6年6月)のところ流行の兆候はみられませんが、ヘルパンギーナは昨夏は大流行しましたし、咽頭結膜熱も昨年末に流行したことが記憶に新しいため、今後も注視していく必要があります。

なお、これらの病気はいずれも、医師の許可があればにじのへやでお預かりすることができます。どうぞお気軽にご相談ください。

